

| G119      |  | 里山学      |         |
|-----------|--|----------|---------|
| 英名科目名     | SATOYAMA Studies : The sustainable interaction of nature and humans in landscape   |          |         |
| 大学名       | 龍谷大学   |          |         |
| 連絡先       | 教育学部<br>TEL : 075 - 645 - 7891<br>FAX : 075 - 643 - 5021   |          |         |
| 担当教員      | 丹野研一（考古植物学文学部）、村澤真保呂（社会思想史社会学部）、宮浦富保（森林生態学・林木育種学工学部）、石井規雄（山城萱葺株式会社）、高柳敦（京都大学大学院農学研究科）、岡本健資（仏教学政策学部）、内田恵（京都府農林水産部森の保全推進課）、牛尾洋也（民法法学部）、友永雄吾（文化人類学国際学部）、坂田滋（坂田農産）、野村Giro法史（フランス料理シェフ）、丸橋裕一（東近江市里山活用推進室長）谷垣岳人（生態学、政策学部）  |          |         |
| 開講期間      | 2021年04月12日(月)～2021年07月12日(月)<br>3講時 13時30分～15時00分(毎週月曜日)<br>リレー講義とフィールドワーク<br>「龍谷の森」でのフィールドワークを1回（3時間つまり2回分）行います。日程など詳細は講義中にアナウンスします（現時点では5月中下旬の土曜日を予定しています）。<br>「龍谷の森」は瀬田キャンパスにあり、「生物多様性保全上重要な里地里山」として環境省に選定されました。<br><br>雨天中止等の案内はポータルサイトmanabaに掲示します。  |          |         |
| 開講形態      | 前期・春学期   | 開講曜日・講時  | 月曜日 3講時 |
| 単位数       | 2  | 履修年次     | 1回生以上   |
| 会場        | 深草学舎   |          |         |
| 授業定員      | 200  |          |         |
| 単位互換生定員   | 30   | 京カレッジ生定員 | 20      |
| 試験・評価方法   | A4一枚程度のレポートを計9回程度課します（約90点）。野外実習報告（1回）（約10点）と合計して100点満点とします。   |          |         |
| 超過時の選考方法  | 書類選考   |          |         |
| 受講料       | 30,000円（単位互換履修生は不要）  |          |         |
| 別途負担費用    | 野外実習の交通費が必要  |          |         |
| その他特記事項   | <b>【会場】</b><br>龍谷大学深草学舎<br>第1回目の教室については別途「お知らせ」欄に掲載します。<br><br>予・復習に関しては、担当教員によりその都度指示を出すようにします。<br>リレー講義と野外実習で里山を体験し理解する、龍谷大学ならではの科目です。   |          |         |
| パッケージ科目   |  |          |         |
| 低回生受講推奨科目 |  |          |         |
| 講義概要・到達目標 | <b>&lt; 講義概要 &gt;</b><br>リオデジャネイロで開催された地球サミット（1992年）は、地球環境問題の解決にむけた大転換点であり、日本においても環境行政の歴史に残る大転換がなされた。1993年には『生物多様性条約』を締結し、国際社会への責任として国内法が整備された。『環境影響評価法』（1999年施行）においては、生態系の体系的保全、身近な自然との触れ合い活動の場の確保の要項が新たに加わった。さらに『生物多様性国家戦略2012-2020』が策定され、いま日本の社会は、開発・成長型から安定・成熟型にむけて進みつつある。エネルギー、木材、食料の自給率が低下する現代の日本において、人間活動が歴史的につくりだしてきた身近な自然である里地・里山（沿岸部では里海）の生物多様性の不可逆的な崩壊、人と自然とを結ぶ文化の消滅の危機が広く知られてきた。現在、地球規模での自 |          |         |

然環境の保全・再生、そして日本各地でも新たな環境再生の模索が始まっている。人と自然との新たな共存を創成するためには、人間の智のあらわれである宗教・人文・社会・芸術文化・自然科学、そして地域社会の住民、行政との横断的連携・相互交流が不可欠であることが明らかになってきた。古代より開発が始まった近畿地方では、土地面積の65.6%が里山（二次林・植林地）であり、中山間地域の放置された里山・農林業・地域社会の振興も現在直面している緊急の課題である。

2001年3月、龍谷大学は、絶滅危惧種のオオタカの棲む瀬田学舎隣接地の里山（38ha）の大規模造成をやめ、里山を活用した新たな教育・研究と地域社会との連携にむけて動き始めた。以来この里山は「龍谷の森」と呼ばれるようになり、2004-08年には、「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」を、2009年からは「里山学研究センター」を開設し、生物多様性・環境計測調査、社会人文科学・地域共生学調査研究により里山の総合研究を行っている。この講座は、これらの研究成果の公開の場であり、また、里山の現場に関連する方を招いてより深い理解を構築しようとするものである。

< 到達目標 >

人文・社会・自然科学研究領域の交差・融合する世界を体験すること。  
 地域社会、行政との協働による新たな環境創成の活動を体験すること。  
 将来世代に引き継ぐべき環境を見通すこと。  
 里山フィールドワークでは、生の自然体験を通して考える。

#### 講義スケジュール

講義タイトルは仮題です。

- 1回目 「里山」という問題（村澤真保呂）
- 2回目 里山の歴史と現状（宮浦富保）
- 3回目 持続可能な新しい企業モデルの実践～伏見のヨシ原と共に～（石井規雄）
- 4回目 考古植物学から提案する新しい小麦生産（丹野研一）
- 5回目 人々の暮らしと野生動物（高柳敦）
- 6・7回目 野外実習 5月中下旬の土曜日に瀬田の龍谷の森で実施する予定（翌日に予備日）（丹野研一、谷垣岳人）
- 8回目 里山と仏教（岡本健資）
- 9回目 京都モデルフォレスト運動（内田恵）
- 10回目 里山の開発の歴史と今日の課題（牛尾洋也）
- 11回目 オーストラリア先住民族の環境利用（友永雄吾）
- 12回目 農業生産～近江日野からの現場レポート（坂田滋）
- 13回目 料理で結ばれる里山と都市（野村Giro法史）
- 14回目 里山と子供たち（丸橋裕一）
- 15回目 昆虫と里山（谷垣岳人）

教科書 村澤真保呂 牛尾洋也 宮浦富保 『里山学講義』（晃洋書房）（ISBN:9784771026339）

参考書 『里山学のまなざし』丸山・宮浦著  
 『里山のガバナンス』牛尾洋也 鈴木龍也 編（晃洋書房）  
 『里山学のすすめ』丸山徳次 宮浦富保 編（昭和堂）  
 講義時に紹介する